

書名	筒井順慶の悩める六月			著者名	中南 元伸／著			
出版社	文芸社	ISBN	978-4-286-20611-0	本体価格	¥1,300	発売	2019/6/1	
内容	日向守、なんで上様を討つてもうたんや——日本史上屈指のクーデター・本能寺の変。日向守(明智光秀)と上様(織田信長)、双方に縁続きの筒井順慶は、恩と義、そしてお家の存続と政治力学の板挟みとなって苦悩する。「日和見順慶」との風評被害を受ける筒井順慶の真の人間像と、武将間の駆け引きをリアルにコミカルに描き切る、これぞ「読まなきゃ損」の歴史的傑作。							

書名	覚盛上人御忌記念 唐招提寺の伝統と戒律			著者名	一般財団法人 律宗戒学院／編			
出版社	法蔵館	ISBN	978-4-8318-6241-9	本体価格	¥10,000	発売	2019/6/1	
内容	唐招提寺中興の祖・覚盛上人の770年御忌を記念して、唐招提寺の教義・歴史や覚盛上人にまつわる事績・事象を多角的に解明する。							

書名	図説 地図とあらすじでわかる！万葉集			著者名	坂本勝／監修			
出版社	青春出版社	ISBN	978-4-413-04572-8	本体価格	¥1,250	発売	2019/6/4	
内容	天皇・貴族から農民、芸能者、防人の兵士など、幅広い階層による、恋・自然・人生の哀歓、望郷の念といった様々なジャンルの歌が約4500首も収録された『万葉集』。1300年以上読み継がれてきたこれらの歌には一体どんな思いが込められていたのか…。「令和」の時代に呼んでおきたい！日本人のこころの原点にふれる一冊。カラー口絵付き。							

書名	新装版 万葉の時代と風土 万葉読本Ⅰ			著者名	中西 進／著			
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-703684-0	本体価格	¥1,700	発売	2019/6/3	
内容	「令和の夜明け、いまこそよみがえれ『万葉集』の人間力」——中西進わが国の「詩」や「ことば」にかかわりながら、万葉に無縁でいることはできない。形成過程をたどり、万葉を万葉たらしめた背景をさぐり、古代人の詩的感性と現代の詩心との接点を模索する、創造的万葉講義。							

書名	月人壮士			著者名	澤田瞳子／著			
出版社	中央公論新社	ISBN	978-4-12-005197-5	本体価格	¥1,700	発売	2019/6/10	
内容	気鋭の歴史作家が描き出す、聖武天皇の真実！ 756年、大仏建立など熱心に仏教政策を推進した首(聖武)太上天皇が崩御する。道祖王を皇太子にとの遺詔が残されるも、その言に疑いを持った前左大臣・橘諸兄の命を受け、中臣継麻呂と道鏡は、密かに亡き先帝の真意を探る。しかし、ゆかりの人々が語るのは、母君との尋常ならざる関係や隔たった夫婦のありよう、御仏への傾倒、迷走する政……と、死してなお謎多き先帝のふるまいや孤独に沈む横顔ばかりで――。							

書名	新版 古代天皇の誕生			著者名	吉村 武彦／著			
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-400471-2	本体価格	¥960	発売	2019/6/14	
内容	天皇はどこからきたのか。「日本」の国号はいつ決まったのか。邪馬台国以降、古代国家はどのように確立されたか。王位を群臣推挙によって継承しながら王権を強化し、やがて「天皇」を名乗り、律令制国家として確立していった大和王権を東アジア諸関係のなかで考察する。							

書名	橘諸兄			著者名	中村順昭／著			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-05288-7	本体価格	¥2,100	発売	2019/6/21	
内容	奈良時代の政治家。母の橘三千代の死後、臣籍降下して橘諸兄(もろえ)となる。藤原四兄弟が疫病に倒れると政権の中枢に立ち、聖武天皇の度重なる遷都や東大寺大仏の造営など、天平期の諸政策を主導するが、藤原仲麻呂の台頭で失脚する。五世王にすぎなかった諸兄はいかにして政界の頂点に登りつめたのか。最新の発掘成果にも触れつつその生涯を描き出す。							

書名	事典 日本の年号			著者名	小倉慈司／著			
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08353-9	本体価格	¥2,600	発売	2019/6/26	
内容	古来、さまざまな理由で改元を繰り返し、今日まで続く日本の年号。大化から令和まで、二四八すべての年号を網羅し、確かな史料に基づき分かりやすく紹介する。年号ごとに在位した天皇、改元日、改元理由、年号字決定までの過程を明記し、その典拠や訓みを丁寧に解説。古記録を精査し、地震史・環境史などの成果も取り込んだ〈年号〉事典の決定版。							